

3課

誇りと謙遜

4月18日

安息日午後

4月11日

暗証聖句

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。(ルカ 14:11、新共同訳)

おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。(ルカ 14:11、口語訳)

今週の聖句

Iヨハネ 2:15～17、ルカ 18:9～14、Iヨハネ 1:9、ヘブライ(ヘブル)11:24～26、ルカ 22:24～27、フィリピ(ピリピ)2:3～8

今週のテーマ

私たちはみな、自尊心が強く、自分は**決して**間違っていないと考える人を知っています。あるいは、主導権を握りたがり、指示や建設的な批判を決して受け入れようとしない人を知っているかもしれません。あるいはまた、常に対立しているような人や、ほかの人を見下すことが得意な人を知っているかもしれません。私たちの心には、すぐに他人の顔が思い浮かぶかもしれませんが、本当の問題は、「私たち1人ひとりはどうなのか」ということです。ほかの人を公然と非難し、自分の人生の中の誇りを認めないことで、私たちは自分自身を欺いているのです。

私たちはみな、誇りと戦ったことがあります。周りの人よりもよく見られたい、格好よく振る舞いたい、うまく話したい、優れているように見られたいと思った経験は誰にでもあるでしょう。自分が彼らより、少なくとも何らかの点で優れていると信じているからです。かつてある人が、誇りとは、自分の人生に価値があることを示したいという欲求から生まれるものだと言いました。しかし、私たちは神によって創造され、私たちのためにキリストが死んでくださったのですから、自分の人生に価値があることをすでに知っているはずですよ。

今週は、誇りが神や他者との関係に及ぼす影響について探るとともに、他者の前にへりくだること、また言うまでもなく、神の前にへりくだることについて聖書が教えていることに目を向けます。

「誇り」。この言葉について考えるとき、あなたは高慢な政治家、金持ちや有名人、あるいは孔雀などを思い浮かべるかもしれません。誇りとは、自分がほかの人よりも重要で優れていると感じる心の状態です。実のところ、誇りは頼りにならない感情であり、頼りにすべきでもありません。

誇りは、神のそば近くで仕えていた「翼で覆うケルブ」〔口語訳「守護のケルブ」(エゼ 28:14)〕、ルシファーから始まりました。いつ、どのようにして、彼の心に利己的な思いが忍び込んだのかはわかりませんが、その思いが大争闘と呼ばれる宇宙的戦いを引き起こしたことは確かです。私たちは、サタンが神とは正反対の存在であることを知っています(イザ 14:12~14とフィリピ〔ピリピ〕2:5~11を比較)。サタンはアダムとエバの心に疑いを植えつけ、神よりも自分自身を愛し、信賴するように誘惑しました。結果として、それ以来、私たちの世界は罪のもたらす結果と戦っているのです。

問1 Iヨハネ 2:15~17 を読んでください。この箇所は、誇りと世を愛することについて、どんな三つの大切な点を教えていますか。

誇りは、肯定的なものになりうるでしょうか。おそらく私たちが通常知っている意味では、そうならないでしょう。しかし、誰かの業績について話すときや、誰かがしたこと深く感謝する(「君を誇りに思ふよ!」と言う)ような場面では、この言葉を肯定的に使うことがあります。卓越性を追求したり、神から与えられた賜物や能力を認め、感謝したりすることは、必ずしも誇ることはありません。その点を理解することは重要です。聖書によれば、適切な自己愛というものがあります(マコ12:31で、「隣人を自分のように愛しなさい」〔口語訳「自分愛するようあなた隣り人を愛せよ」〕とイエスが命じられたことを考えてください)。しかし、これは常に利他的な愛です。また、自分の生活の中に神の臨在を感じ、明確な目的を持って生きているとき、人は誇りません(1テモ 3:1 参照)。人が誇るのは、神が自分の生活の中でなしておられることに対して、神に栄光を帰さないときです。

私たちは、自分の所有物、能力、業績が私たちの価値を決めるのではないことを忘れないように注意すべきです。そうではなく、私たちの価値は、常に神からもたらされるべきです。なぜなら、私たちが持っているすべてのものは、たとえ私たちが誇りへと誘うものであっても、結局のところ、神からもたらされるものだからです。これは、決して忘れてはならない点です。

自問自答してみてください。「私はどれほど高慢な人間なのだろうか」「個人としての誇りは、神や他者との関係に、どう影響を与えているだろうか」と。

イザ 14:12~14 (新共同訳)

14:12 ああ、お前は天から落ちた/明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた/もろもろの国を倒した者よ。

14:13 かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り/王座を神の星よりも高く据え/神々の集う北の果ての山に座し

14:14 雲の頂に登って/いと高き者のようになろう」と。

フィリ 2:5~11 (新共同訳)

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、

2:7 かえて自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

2:9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

2:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、

2:11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

Iヨハ 2:15~17 (新共同訳)

2:15 世も世にあるものも、愛してはいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。

2:16 なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。

2:17 世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

マコ 12:31 (新共同訳)

12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。』

Iテモ 3:1 (新共同訳)

3:1 この言葉は真実です。「監督の職を求

イザ 14:12~14 (口語訳)

14:12 黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった。

14:13 あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、

14:14 雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』。

ピリ 2:5~11 (口語訳)

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえて、おのをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざまをかめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

Iヨハ 2:15~17 (口語訳)

2:15 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

マコ 12:31 (口語訳)

12:31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない。』

Iテモ 3:1 (口語訳)

3:1 「もし人が監督の職を望むなら、それ

める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる。」

は良い仕事を願うことである」とは正しい言葉である。

月曜日 4月13日 自分を知る

2人の男が祈るために教会へ行きました。1人は尊敬されている長老で、礼拝が始まる前、会衆から見えるように前方に立ち、自分の思い込みの善良さを神に感謝しながら声を出して祈りました。もう1人の男は、社会の片隅に住む人で、教会の一番後ろに立ち、その目は、両肩にのしかかる罪の重みのゆえに涙でかすんでいました。彼は教会の後方の片隅でひざまずき、絶望のあまり、「主よ、どうか罪人の私を憐れんでください」とささやいたのです。

問2 ルカ 18:9～14 を読んでください。この2人の男について、あなたはどのように思いますか。イエスはどんなことを考えられたのでしょうか。私たちにとって、ここにはどんな重要な教訓がありますか。

自分自身を高ぶることは、私たちにとって実にたやすいことです。自分の功績や善良さを人に伝えることが、時として当たり前のようにもなっていることもあります。しかし、そのようなこと自体は、天の目から見た私たちの評価に何の影響も与えません。それどころか、私たちが考えがちなこととは正反対です。なぜなら、「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」〔口語訳「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」〕(ルカ18:14)からです。またイエスは、〔婚宴に招待されたら〕末席に座り、もし招いた人が望むなら上席に進めてもらいなさい、と勧めておられます(同14:8～10)。イエスが教えておられるのは逆さまの王国であり、私たちの予想とは正反対です。「キリストは、罪人であることを自覚した人だけをお救いになれるのである」(『希望への光』1245ページ、『キリストの実物教訓』第13章)。

まず、自分が本当に罪深い状態にあり、キリストを切実に必要としていることを自覚したとき、私たちはキリストのもとに行くことができます。「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださる」〔口語訳「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」〕(Iヨハ1:9)と、確信しているからです。キリストに近づけば近づくほど、私たちは自分の罪深さと無価値さをさらに自覚するようになります。「本当に自分を知る方法は、ただ一つしかない。それは、キリストを眺めることである。人々が自分の義を誇るのは、キリストを知らないからである」(『希望への光』1245ページ、『キリストの実物教訓』第13章)。

では、神は高慢な者をどう思っておられるのでしょうか。Iペトロ〔ペテロ〕5:5に

は、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」〔口語訳「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」〕とあります。これ以上に明確な言葉はありません。

【参考】英語テキストにある文

When did you last experience God's grace in your life? (Indeed, we should experience this grace daily.) We should also show grace to others. Spend some time in prayer right now, asking God to humble you under His mighty hand, that He alone may exalt you in due time.

あなたの人生において、最近、神の恵みを体験したのはいつですか。(実際、私たちはこの恵みを日々体験すべきです) 私たちもまた、他者に対して恵みを示すべきです。今すぐ少し時間を取って祈り、神の力強い御手の下で自分を謙虚にさせてくださるよう、そして時が来れば神だけがあなたを高めてくださるよう、神に願い求めましょう。

20

ルカ 18:9～14 (新共同訳)

18:9 自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。

18:10「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。

18:11 ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。』

18:12 わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』

18:13 ところが、徴税人は遠くに立ち、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

18:14 言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』

ルカ 14:8～10 (新共同訳)

14:8 婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、

14:9 あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥

ルカ 18:9～14 (口語訳)

18:9 自分を義人だと自任して他人を見下している人々に対して、イエスはまたこの譬をお話しになった。

18:10「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとり徴税人であった。

18:11 パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った。『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をすする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。』

18:12 わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。』

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

18:14 あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。』

ルカ 14:8～10 (口語訳)

14:8「婚宴に招かれたときには、上座につくな。あるいは、あなたよりも身分の高い人が招かれているかも知れない。

14:9 その場合、あなたとその人などを招いた者がきて、『このかたに座を譲ってください』と言うであろう。そのとき、あな

をかいて末席に着くことになる。

14:10 招待を受けたら、むしろ末席に行き行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。

Iヨハ 1:9 (新共同訳)

1:9 自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

Iペト 5:5 (新共同訳)

5:5 同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。

たは恥じ入って末座につくことになるであろう。

14:10 むしろ、招かれた場合には、末席に行き行ってすわりなさい。そうすれば、招いてくれた人がきて、『友よ、上座の方へお進みください』と言うであろう。そのとき、あなたは席を共にするみんなの前で、面目をほどこすことになるであろう。

Iヨハ 1:9 (口語訳)

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

Iペテ 5:5 (口語訳)

5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。

火曜日 4月14日 謙虚な僕、モーセ

エジプトの宮殿の壮麗な広間は、富と快楽、そして安逸を誇っていました。「モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、素晴らしい話や行いをする者になりました」[口語訳「モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、言葉にもわざにも、力があつた」](使徒7:22)。権力、富、名声に満ちた生活を手に入れることができたのに、モーセはまったく異なる道を選びました。「歴史家、詩人、哲学者、軍隊の指揮官、また、立法官として彼と並びうる者はなかった。しかし、彼は、こうした世界を前において、『罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び』、富、偉大さ、名誉などを得ることができる有望な将来を断固として拒む道徳的能力を持っていた」(『希望への光』124 ページ、『人類のあけぼの』第22章)。

問3 ヘブライ (ハブル) 11:24~26 は、モーセがなぜ別の道を選び、謙遜になったのかについて、どんなことを教えていますか。

かつてモーセがどれほどの権力者であったか、その出自を考えると、後年の彼の謙遜さは驚くべきものです。彼は、衝動的な一つの罪深い行為(出2:12)によって、自信やうぬぼれをなくしました。山々を教室とし、誇りを捨て去り、モーセは40年間、一つの民を奴隷状態から約束の地へ導き出すために必要なことを神から教えられたのです。エジプトにいれば手にしたはずの権力や富は、モーセが永遠について考えたとき、色あせてしまいました。神は極めて明確な目的をもって彼を召し出され、モーセはその召しに従いました。

この主題を考えるうえでおそらく最も重要なのは、民数記12:3に書かれていることでしょう。「モーセという人はこの地上のだれにもまさって謙遜であった」〔口語訳「モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた」〕。聖書の偉大な族長の1人であるモーセは、その謙遜さと柔和さで知られています。もし彼の人生における大きな出来事(例えば、燃える柴、エジプトでの災い、葦の海〔紅海〕の横断、天から降ったマナ、神との直接の対話、十戒の授与、彼が岩を打ったあとに神の言葉を聞いたことなど)の一つひとつに誇りが入り込んでいたら、彼の人生や指導力は、どれほど違ったものになったでしょうか。想像してみてください。

あなたの人生を振り返ってみてください。もし誰かがあなたを説明するとしたら、「謙遜な」とか、「柔和な」とかいった形容の言葉を用いるでしょうか。なぜそう思う(思わない)のですか。真実は、私たちは自分の力では謙遜になることができないということです。罪は私たちの人生の一部であり、だからこそ私たちにはイエスを切実に必要としているのです。

21

使徒 7:22 (新共同訳)

7:22 そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、素晴らしい話や行いをする者になりました。

ヘブ 11:24~26 (新共同訳)

11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、

11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、

11:26 キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。

出 2:12 (新共同訳)

2:12 モーセは辺りを見回し、だれもないのを確かめると、そのエジプト人を打ち殺して死体を砂に埋めた。

民 12:3 (新共同訳)

12:3 モーセという人はこの地上のだれにもまさって謙遜であった。

使徒 7:22 (口語訳)

7:22 モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、言葉にもわざにも、力があつた。

ヘブ 11:24~26 (口語訳)

11:24 信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、

11:25 罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、

11:26 キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。

出 2:12 (口語訳)

2:12 左右を見まわし、人のいないのを見て、そのエジプトびとを打ち殺し、これを砂の中に隠した。

民 12:3 (口語訳)

12:3 モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた。

水曜日 4月14日 神が最も嫌われるもの

あなたがイエスの弟子だと想像してみてください。イエスと共に旅をし、食事をし、そばで眠り、イエスが数え切れないほどの人々の人生、そしてあなた自身の人生を変えられるのを見て学びます。人々はイエスを求めて押し寄せ、イエスがあな

たを最も身近な十二弟子の1人に選んでくださったことが、いかに特別であるかに気づきます。すると、あなたはこう考え始めます。「弟子の中で、一番偉いのは誰なのだろうか」

問4 ルカ 22:24~27 には、偉大さの意味について、弟子たちの論争に対するイエスの答えが記されています。ここでイエスのメッセージの核心を捉えているのは、どの一言でしょうか。

これほど長い間、イエスの近くにいたのだから、こんな議論など彼らの頭に思い浮かびもしなかっただろうと、誰もが思うでしょう。しかし、そうではなかったのです。

この男たちは自分の召しに満足するどころか、彼らの心の中には誇りが芽生え、自分はほかの人より優れていると、それぞれが考えるようになりました。このような思いに心を支配されてしまうのは、簡単なことです。しかし私たちは、こう教えられています。「高慢とうぬばれほど神がお嫌いになるものはなく、また人の魂を危険にさらすものはない。あらゆる罪の中で、これほど絶望的でどうにもならないものはない」(『希望への光』1243 ページ、『キリストの実物教訓』第13章)。

これは私たちにとって非常に深刻なことです。私たちの誇りは、**何よりも神を不快にさせるものであり**、しばしばそれは、私たちが自覚できないため、克服するのが難しい人間の性格的傾向です。自己満足の状態にあるとき、私たちは自らを省みません。まるで誇りが王であるかのように振る舞うからです。私たちは立ち止まり、自己診断を行い、神が私たちの真の状態に目を開かせてくださるように願い求める必要があります。なぜなら誇りこそが、今、私たちを神との親密な関係から遠ざけている最大の要因かもしれないからです。

立ち止まって、こう祈りましょう。「主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることではできません。これは、あなたのものです。どうぞ清く保ってください。……どうぞ、わたしを練り、形づくり、清い聖なる雰囲気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください」(『希望への光』1246 ページ、『キリストの実物教訓』第13章)。

22

ルカ 22:24~27 (新共同訳)

22:24 また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった。

22:25 そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。

22:26 しかし、あなたがたはそれではない。あなたがたの中でいちばん偉い

ルカ 22:24~27 (口語訳)

22:24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。

22:25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの

人は、いちばん若い者ようになり、上に立つ人は、仕える者ようになりなさい。

22:27 食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

中でいちばん偉い人はいちばん若い者ように、指導する人は仕える者ようになるべきである。

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者ようにしている。

木曜日 4月16日 イエスを見つめる

問5 ルカ 22:27 を読み直してください。キリストに従うすべての人にとって、ここでの重要なメッセージは何ですか。

上に立ちたいという弟子たちの願望や、自分の方がほかの人より優れているという思い込みとはまったく対照的に、私たちは謙遜の究極の模範であるイエスを見ます。イエスは、「しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である」〔口語訳「しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者ようにしている」〕(ルカ 22:27)と言われました。イエスは、日々、困っている周囲の人々に与え続けられました。憐れみの心に満たされ、群衆を飼い主のいない羊のように思われたからです。イエスは、人類が人生において何よりもご自分を必要としていることを知っておられましたが、この単純な真理に気づいた人は、ほとんどいませんでした。イエスは天を捨て、人類のために死なれましたが、それは、人類がその恵みの業を理解し、ご自分との関係を持つようにとの招きに応じることを願ってのことでした。

問6 フィリピ(ピリピ)2:3~8 を読んでください。この箇所は、十字架を踏まえて、私たちがいかに生きるべきかについて、どんなことを教えていますか。

イエスはすべてを成し遂げ、すべてを負われました。私たちが立ち止まり、真に、そして純粋にイエスを見るとき、私たちは自分の不純さ、汚れ、そして現在の生活の中で彼を切実に必要としていることに気づかざるをえません。

イエスに目を向けると、ほかのすべて(特に、自分自身や自分が思い込んでいる偉大さ)は、まったく取るに足りないものになります。イエスがどんなお方であるか、どんなことをなされたか、どれほど被造物を愛しておられるかが、すべての中心になります。私たちがイエスを見つめるとき、自己は確実に消え去るのです。

イエス。なんと美しく、なんと力強い御名でしょう。イエスは謙遜そのものです。心を開いてイエスを学び、彼が私たちのためにしてくださったことを理解し、彼の命の言葉を心に染み込ませるとき、私たちは、自分がいかに傲慢で惨めであるかに気づきます。イエスと共に生き、彼から学んだ弟子たちでさえ、誇りと格闘したのですから、私たちは彼らと違うなどと自分を欺くことはできません。結局、謙遜

であるときにのみ、私たちはイエスとの関係を深めることができるのです。

【参考】英語テキストにある文

Spend some extra time with Him right now. Take your Bible, a pen, and a journal or some paper and find somewhere quiet— perhaps even outside. Invite God to soften and speak to your heart. Write out Psalm 138, word for word. As you write, what words especially stand out to you?

今すぐ、神様と少しだけ特別な時間を過ごしましょう。聖書とペン、そしてノートか紙を用意して、外でもいいので静かになれる場所を探してください。神様があなたの心を和らげ、語りかけてくださるよう祈りましょう。詩篇 138 篇を一語一語書き写してみてください。書きながら、特に心に響く言葉はありますか。

23

ルカ 22:27 (新共同訳)

22:27 食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

フィリ 2:3~8 (新共同訳)

2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、

2:4 めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、者になられました。人間の姿で現れ、

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

詩 138 編 (新共同訳)

138:1 【ダビデの詩。】

わたしは心を尽くして感謝し/神の御前でほめ歌をうたいます。

138:2 聖なる神殿に向かってひれ伏し/あなたの慈しみとまことのゆえに/御名に感謝をささげます。その御名のすべてにまさって/あなたは仰せを大いなるものとされました。

138:3 呼び求めるわたしに答え/あなたは

ルカ 22:27 (口語訳)

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

ピリ 2:3~8 (口語訳)

2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

詩 138 篇 (口語訳)

ダビデの歌

138:1 主よ、わたしは心をつくしてあなたに感謝し、もろもろの神の前であなたをほめ歌います。

138:2 わたしはあなたの聖なる宮にむかって伏し拝み、あなたのいつくしみと、まこととのゆえに、み名に感謝します。あなたはのみ名と、み言葉をすべてのものにまさって高くされたからです。

138:3 あなたはわたしが呼ばわった日に

魂に力を与え/解き放ってくださいました。

138:4 地上の王は皆、あなたに感謝をささげます。あなたの口から出る仰せを彼らは聞きました。

138:5 主の道について彼らは歌うでしょう/主の大いなる栄光を。

138:6 主は高くいましても/低くされている者を見ておられます。遠くにいましても/傲慢な者を知っておられます。

138:7 わたしが苦難の中を歩いているときにも/敵の怒りに遭っているときにも/わたしに命を得させてください。御手を遣わし、右の御手でお救いください。

138:8 主はわたしのために/すべてを成し遂げてくださいます。主よ、あなたの慈しみが/とこしえにありますように。御手の業をどうか放さないでください。

わたしに答え、わが魂の力を増し加えられました。

138:4 主よ、地のすべての王はあなたに感謝するでしょう。彼らはあなたの口のもろもろの言葉を聞いたからです。

138:5 彼らは主のもろもろの道について歌うでしょう。主の栄光は大きいからです。

138:6 主は高くいらせられるが低い者をかえりみられる。しかし高ぶる者を遠くから知られる。

138:7 たといわたしが悩みのなかを歩いても、あなたはわたしを生かし、み手を伸ばしてわが敵の怒りを防ぎ、あなたの右の手はわたしを救われます。

138:8 主はわたしのために、みこころをなしとげられる。主よ、あなたのいつくしみはとこしえに絶えることはありません。あなたのみ手のわざを捨てないでください。

金曜日

4月17日

さらなる研究

「わたしたちが、イエスに近づき、主の品性の純潔さを明らかに認めれば認めるほど、罪がどれほどはなはだしく恐ろしいものであるかを悟り、自己を称揚する気持ちはなれなくなる。清い者として神に認められるほどの人は、自分の善良さを誇ったりはしない」(『希望への光』1246ページ、『キリストの実物教訓』第13章)。

「栄誉の前に謙遜がある。人の前で高い地位を占めさせるために、天は、バプテスマのヨハネのように、神の前に低い地位を占めている働き人をお選びになる。最も子どものような弟子が、神のための働きにおいて最も有能な者である。天使たちは、自分が偉くなろうとする者ではなく、魂を救おうとする者と協力することができる。……

人が高慢になって、自分は神の大計画の成功に必要な人間だと思ったら、主は彼らを取り除かれる。……

イエスの弟子たちは、キリストの王国の性格について教えられただけでは十分でなかった。彼らにとって必要だったことは、王国の原則と一致ようになる心の変化であった。……。幼な子の単純さと、私心のなさ、信じ切った愛情は、天の神が尊ばれる特性である。これこそ真の偉大さの特徴である。……

罪を深く悔い改めたまじめな魂は、神の御目に尊い。神は、地位によらず、富によらず、知的な偉大さによらず、ただキリストと一つであることによって、人々にご自身の印を押される」(『希望への光』899ページ、『各時代の希望』第48章)。

話し合いのための質問

- ① 次の聖句には(マタ 23:12、詩編〔詩篇〕25:9、149:4、ヤコ 4:6、10)、誇りと謙遜について、どんな洞察がありますか。
- ② 正直に考えてください。あなたが最近、「自分の善良さを誇示した」のは、いつですか。そのことは、あなたと神との関係や、あなたがそれを誇示した人たちとの関係に、どんな影響を与えましたか
- ③ 神との歩みを強めるために、神の前で謙遜になるには、あなたの人生で何を変える必要があるでしょうか。

話し合いのためのヒント：誇りは、神との関係を深めるうえで最大の障害の一つとなりえます。もし私たちがうぬぼれを感じ、神との関係の必要性に気づいていないなら、決してこの関係を追い求めようとはしないでしょ。対照的に、イエスは地上で最も謙遜なお方であり、神と親密な関係を持つとはどういうことかを示す最も完璧な模範でした。

24

マタ 23:12 (新共同訳)

23:12 だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

詩 25:9 (新共同訳)

25:9 裁きをして貧しい人を導き/主の道を貧しい人に教えてくださいます。

詩 149:4 (新共同訳)

149:4 主は御自分の民を喜び/貧しい人を救いの輝きで装われる。

ヤコ 4:6、10 (新共同訳)

4:6 もっと豊かな恵みをくださる。」それで、こう書かれています。「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる。」

4:10 主の前にへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高めてくださいます。

マタ 23:12 (口語訳)

23:12 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。

詩 25:9 (口語訳)

25:9 へりくだる者を公義に導き、へりくだる者にその道を教えられる。

詩 149:4 (口語訳)

149:4 主はおのが民を喜び、へりくだる者を勝利をもって飾られるからである。

ヤコ 4:6、10 (口語訳)

4:6 しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。

4:10 主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。